

原子力事業所安全協力協定加盟事業所防災訓練見学会（原子力科学研究所）

〔開催日〕 令和元年12月10日（火） 13:30～16:10

〔場 所〕 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所

〔参加者〕 協定加盟3事業所から3名参加

〔訓練見学会概要〕

東海村で震度6弱の地震が発生し、NSRR において原子力災害対策特別措置法（以下「原災法」という。）第15条事象、燃料試験施設において第10条事象がそれぞれ発生したとの想定で訓練が行われた。

NSRR では、全制御棒（11本）が固着して挿入されず、原子炉停止機能の全てが喪失して原災法第10条事象に至り、更に原子炉プール水が漏えいして炉心が露出し、原子炉冷却機能の全てが喪失して原災法第15条事象に進展したとの想定。

燃料試験施設では、 β γ コンクリートセルで加工した試験片の密度測定を実施するため、試験片を試料移送容器に入れてホット実験室に運搬し、分析装置内への収納作業を行っていたところ、管理区域内で γ 線エリアモニタが発報。更に管理区域外において $78\mu\text{Sv/h}$ の放射線量を確認し、その状態が10分間継続したことから原災法第10条事象に至るとともに、負傷者が発生したとの想定。

地震発生後、速やかに現地対策本部が設置された。そして、現地対策本部、NSRR 事故現場指揮所、燃料試験施設事故現場指揮所、機構本部で画面装置を用いて画像を共有しながら、2箇所の事故現場で並行して進展する事象の速やかな収束が行われた。また、負傷者についても、救急車で速やかに搬送された。

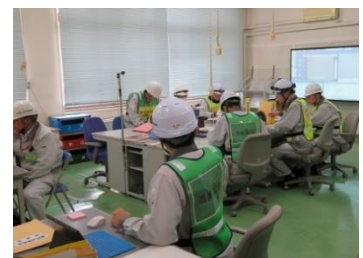
協定加盟事業所より参加した見学者は、訓練概要の事前説明を受けた後、現地対策本部、NSRR 事故現場指揮所、燃料試験施設事故現場指揮所、負傷者の救急車での搬送及び模擬プレス発表を見学した。見学者からは、「情報統括者が全体をコントロールするとともに、事故現場等の情報を吸い上げて適宜共有したために、訓練が円滑に実施された」との意見があった。



現地対策本部



NSRR 現場指揮所



燃料研究施設現場指揮所



救急車による負傷者搬送



模擬プレス発表